

火に喰ひ下れ

まだ、足らぬ敢闘精神

鐵の廿日、新潟縣内市に於ける熊の襲撃をある戦ひを生かしてこゝろ市内各所に同時火災が発生した。この火災には何といつても初

だがこの火災に同じくして

△一回の空襲は第一番に敵が敵期防火と敵機燃料に、市内機関内
障害に與る巧妙だつた事に在り。会では甘價のエレクトロン焼夷彈
散らなければならぬ、吾族露方を隆机の機敵な防火活動で、火成
面を主力の目標とみせかけ、其は功といふところへまたまた、個個
その主力を燃料と燃料に指向し、の小型油脂焼夷彈が落下、これも
たのだつた、將來敵の敵難行動、坐はまでは燃焼、消火したがそのう
はこんな生やさしいものではな。ち一人關れ、入られ、遂に敵機を中
くもつともつと巧妙に出ること、止してしまつたため災害を蒙つた
は勿論なので敵の事を言かれぬ。最後まで陰下つて初期防火に頑張
心算が大切である。敢て敵機の重宝とはいはれぬ。

ころでもない。しかしこの敵艦隊
 帥にも頭度があり、死傷者の大勢
 分が潰散、防火に精勵中、荒火災
 に端がれ遂に行先を見失つた結果
 にあるところからみて最後まで頑
 張つたのちに必ず敵艦遊離しな
 ければならない

▽…大坂の戦いを全うして豊臣にいつまでも留居、豊臣に初め防火に努めず、消せるものを消火しなかつた事例もあつた、敵艦の状況をよく観察しその去つた後は艦内から飛び出し活動を展開することが肝要だ、市岡某艦長は艦が〇〇を占領し降りそそぐ焼夷弾の中に敢然と立ちどまりの任命である通信員を艦

ることもに隣接東京縣から燃え
うつる火災に對し河中に飛込み
必死となつて防火に努め隣接の
官廳其所を遂に固く結んだと女
たちの胸望で語つたのであつた

又……この夜騒動内にも焼夷弾の攻撃を受けた、食堂内に倒込んだ小型やエレクトロン焼夷弾を太右衛門警防部長は防火に關ひ満面に一週間の火災を負つた位で、默助な敵艦は今何處かに手をかへ、品をかへて來た。一木一草と雖も焦土化さすにはおかぬだらう、機雷に對する牆へもこの際必ず哀づてはならぬ、旺盛な龍潭もて斷平敵の野望を粉碎しよう。